

## 沿 革

- 明治 23年2月 第3高等中学校医学部（現岡山大学医学部）に薬学科が附設された。
- 27年9月 勅令第17号により廃止された。
- 昭和 44年4月 医学部に薬学科が設置された。
- 45年4月 薬化学，生理化学及び生薬学講座が開講された。
- 46年2月 医学部薬学科の第1期建築工事（3,989 m<sup>2</sup>）が完成した。
- 4月 薬物学及び衛生化学講座が開講された。
- 47年4月 薬品化学及び薬剤学講座が開講され，薬学科における専門講座（7講座）が完了した。
- 48年4月 大学院薬学研究科薬学専攻が設置され，小山鷹二教授が研究科長に就任した。
- 50年4月 製薬化学科が設置された。
- 51年4月 薬品分析学及び薬品物理化学講座が開講された。
- 5月 国立学校設置法の一部改正により薬学部（薬学科，製薬化学科）が設置され，小山鷹二教授が学部長に就任した。
- 52年3月 製薬化学科棟及び講義室の第2期建築工事（3,342 m<sup>2</sup>）が完成し，建物総面積7,331 m<sup>2</sup>となる。
- 4月 微生物薬品化学及び生物薬品製造学講座が開講された。
- 53年4月 合成薬品製造学及び環境衛生化学講座が開講され，製薬化学科における専門講座（6講座）が完了した。
- 附属薬用植物園が設置された。
- 学部長小山鷹二教授の定年退官により，田中善正教授が学部長に就任した。
- 54年4月 大学院薬学研究科に製薬化学専攻が設置された。
- 55年3月 附属薬用植物園に管理棟（200 m<sup>2</sup>）が完成した。
- 56年3月 附属薬用植物園に温室（128 m<sup>2</sup>）が完成した。
- 10月 学部長田中善正教授の学生部長就任により，田坂賢二教授が学部長に就任した。
- 61年4月 学部長田坂賢二教授の任期満了により，大和正利教授が学部長に就任した。
- 大学院薬学研究科に生体調節科学専攻（後期3年博士課程）が設置された。
- 62年4月 大学院薬学研究科生体調節科学専攻を移設し，新たに大学院自然科学研究科（後期3年博士課程）が設置された。
- 平成 2年4月 学部長大和正利教授の任期満了により，田坂賢二教授が学部長に就任した。
- 6年4月 学部長田坂賢二教授の定年退官により，篠田純男教授が学部長に就任した。
- 10月 薬学基礎講座が開講された。
- 7年4月 大学院薬学研究科に医療薬学専攻が設置された。
- 10年4月 学部長篠田純男教授の任期満了により，原山尚教授が学部長に就任した。
- 11年4月 国立学校設置法の一部改正により薬学部（総合薬学科）に改組され，薬品開発科学講座，分子細胞薬品科学講座，医療薬品科学講座及び衛生薬品科学講座が設置された。
- 大学院薬学研究科が大学院自然科学研究科（博士前期課程）に統合された。
- 12年4月 学部長原山尚教授の任期満了により，土屋友房教授が学部長に就任した。

- 13年4月 大学院自然科学研究科博士後期課程の改組により，生体調節科学専攻は生体機能科学専攻（薬学系3講座）となった。
- 14年4月 大学院自然科学研究科博士前期課程の改組により，2専攻（薬品科学，医療薬学専攻）5大講座となった。
- 16年4月 学部長土屋友房教授の任期満了により，木村聰城郎教授が学部長に就任した。
- 17年4月 大学院医歯学総合研究科と大学院自然科学研究科（薬学系）を統合し，大学院医歯薬学総合研究科の設置となり，部局化された。  
博士課程生体制御科学専攻機能制御学講座，脳神経制御学講座の2講座，社会環境生命科学前項国際環境科学講座に薬学系6分野が加わることとなった。  
博士後期課程創薬生命科学専攻は創薬科学講座，先端薬物療法開発学講座の2講座となった。  
博士前期課程創薬生命科学専攻は医療薬学講座，医薬品開発科学講座，分子生命薬品科学講座，衛生予防薬品科学講座の4講座となった。  
薬学部は医療薬学講座，医薬品開発科学講座，分子生命薬品科学講座，衛生予防薬品科学講座の4講座となった。
- 18年4月 学校教育法の一部改正により，薬剤師の養成を目的として臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする修業年限6年の薬学科および研究者など多様な人材の養成を目的とする修業年限4年の創薬科学科が設置された。